

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271100541		
法人名	株式会社 しんわ		
事業所名	グループホーム しんわ		
所在地	島根県八束郡東出雲町下意東761番地の1 (電話) 0852-53-0547		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年 6月26日	評価確定日	平成20年 7月29日

## 【情報提供票より】(20年 6月 1日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 9 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 17 人	

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有( ) 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 6 月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.9 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院、生協東出雲診療所、高木歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自治会3地区が交わる位置にあり、小学校、神社、バス停も近く、近隣の人と交流しやすい環境にある。地域行事への参加や外出の機会も多く、地域に溶け込んでいる。ケアプラン様式の工夫、改善により、個別の想い、願い、喜びなどのアセスメントが充実し、ケアに活かすことで笑顔の通い合う和やかな生活の場となっている。自己評価、外部評価をサービス向上、改善に積極的に活用している。「よりよいケアをする」を目標に3つのテーマを掲げ、各グループで改善に取り組んでおり、サービスの充実と職員の意欲・資質の向上へと相乗効果を上げている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、今回とも訪問調査時にはホーム長、管理者、事務、介護スタッフが同席し、改善に向けてホームを挙げての意欲がうかがえた。前回評価結果はミーティングで話し合い、改善計画シートを活用して、地域向け広報紙の再開、家族向け個別便りの充実、運営推進会議の参加者の拡大、家族懇談会の工夫、ケアプランの内容充実、職員育成等、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が個別に自己評価を行い、ユニットごとのミーティングの時間を作り、気付いたことからすでに改善に取り組んでいる。地域の人たちの利便性を考え、外壁に時計を設置したらどうかという意見が出、即実現している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町職員、地域包括支援センター、自治会3地区、駐在所、家族等の参加で開催している。外部評価報告や事例報告、認知症についての説明などにより、ホームの理解を深めている。家族も交替で参加し、地域の様子を知ってもらう機会になっている。参加メンバーの意見によって防災用屋外サイレンの設置をし、それを地域向け広報で住民に知らせるなど、地域との連携やサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪は多く、近況報告に合わせ要望や苦情を聴くようにしている。家族が遠方の場合は電話で健康状態等を知らせている。2ヶ月に1回発行する家族向け広報紙に担当からのコメントも添えている。年1回の家族懇談会では、途中、職員が席を外すことで家族だけの率直な意見交換の場を作り、後で代表にまとめて報告してもらうなど工夫をし、改善に反映をさせている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>神社、小学校、JA、公民館、バス停などが近く、また、自治会3地区の交わる位置にあり、地区住民の往来が多い。登下校の子供達とのふれあいや、玄関前の畑で近隣の人との交流も多い。地域の諸行事にも積極的に参加し、小中学生の学習の場の提供もしている。近隣住民の声や運営推進会議で出された意見を大切にしている。ホームの暮らしが分かる地域向け広報紙を発行し、町内に回覧してホームの理解を進めている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が話し合っ、「地域の皆さまと交流しながら、喜怒哀楽を共にできる明るい生活の場を目指します」という理念を掲げ、地域に溶け込んだ暮らしを送っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作った理念をホーム内各所に掲示し、日常的に意識、共有できるようにしている。地域密着型事業所として、日々の暮らしの中で理念が実践できるよう取り組んでいる。喜怒哀楽を共にしている実感があり、感情の起伏も受け止めて家族のような関係となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社、小学校、バス停が近く、地域の人達の往来が多い。小学生の挨拶やふれあい、近隣の人達との交流(畑を囲んでの農作業の助言や、食材の差し入れ等)がある。玄関外壁に時計を設置したことで、地域の人に喜ばれている。ホームの暮らしぶりがよく分かる地域向けの広報紙を年数回発行し町内回覧をしている。	○	地域向け広報紙を回覧だけでなく、地域の公的な場所に配布したり掲示することで、ホームへの理解を更に促して欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員が個別に取り組んだものを持ち寄り、2ユニットの相互協力体制を組んでミーティングの時間を作り論議している。昨年の評価報告については報告会で共有し、改善シートを活用し、ほとんどの項目について改善している。職員会議や運営推進会議の提案で改善したことも改善計画シートに記録を残している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、地域包括センター、近隣3自治会、あけぼの会、家族、駐在所などの参加で夜間に開催している。外部評価報告、事例紹介などにより、ホームの理解を深める一方、参加メンバーからの意見で、防災用屋外サイレンを設置する等地域との連携、サービス向上へ活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険関係や、介護者の集いなど町や社協の会議の構成員として参加したり、町や公民館行事にも参加している。町と連携し、地域福祉の充実に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪が多く、近況を伝え、出納帳の確認もしてもらっている。家族が遠方の場合も電話で健康状態等を知らせている。2ヶ月に1回発行する家族向け広報紙に担当からのコメントを添えたり、理念や、日々の様子が分かる写真を掲載するなど工夫をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に近況報告や、要望や苦情を聞くようにしている。年1回の家族懇談会では途中職員が席を外すことで、率直な意見交換の場を作り、後で代表から報告を受け、日常の運営に反映させている。一泊旅行に家族の参加もあり、意見交換の機会となっている。意見箱を使いやすいように検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員はなるべく固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。今年新採用の職員があり、1名のみユニット間の異動を行ったが、利用者や家族に説明し、初めての夜勤は2名体制で行うなど利用者に影響が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修派遣を、各人年1回以上組んでいる。パート職員を含め研修希望を取ることで、意欲の向上を企図している。よりよいケアをするための推進委員会があり、業務改善や研修意欲にも繋がっている。外部からのスーパーバイズの機会も持っている。ホームの暮らしを支える色々な分野で一人ひとりの能力が具体的に活かされ育ってきている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護サービス事業者のケア会議、懇親会に出席している。他グループホームへ実習にも行って、そこで得た学びを活かしている。研修会の参加者との交流もある。「しまね小規模ケア連絡会」に加入し、研修、ネットワークなど、サービス向上にも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近1年間の入居は病院からであり、病院のリハ担当と移動、排泄、入浴などについて不安の無い様によく話し合い、入居前と同じような室内の配置などの工夫をしている。入居後しばらくは、家族に頻繁に来てもらうなど協力も得ている。短期利用できる体制もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「喜怒哀楽を共にする」ことを理念に掲げ、日々の暮らしの中で具体的に活かしている。ケアプラン様式を変えたことでアセスメントによる個別理解がより深まり、利用者の出番や役割も増え、家族のように何でも気軽に言い合えて、相互に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格や好きなことなど暮らしの中で把握するようにしている。茶の時間は職員も手を休めて一緒に過ごし寄り添う時間を増やし、利用者の心の安定につなげている。排泄ケアはオムツからリハパン、安心パンツへ、夜間のポータブルトイレ活用など本人の思いを尊重して快適な排泄支援に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画書の様式を変え、センター方式の暮らし方のシートを取り入れ、好みや希望を把握して援助内容を引き出している。要介護認定の項目表も加え、必要な介護がわかるようにしている。新しい様式になり家族や本人にも説明しやすくなった。	○	新しい様式にしたことで、情報を整理しやすくなっているため、介護計画の充実、活用に期待したい。家族と共に利用者のよりよい暮らしを見守り、支えて行くホームとして期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を目安に、各目標についてモニタリングし、担当者会議で話し合っている。サービス計画書にもモニタリング欄を設けている。入院等で状態が変化した場合には本人、家族の意見希望を聞き、担当者会議で話し合っ見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。受診の送迎支援も行っている。短期利用もできるようにしているが、入院による空きベッド利用であり、まだ利用実績はない。共用型デイサービスについてはニーズや他の事業所での情報を収集している段階である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し、受診送迎の支援もしている。歯科の訪問診療や口腔ケア指導も受けている。認知症については松江市内の専門医に継続してかかっている人もあり、相談や助言も得られる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっている。重度化し話し合いが必要になった時には家族や医療機関と話し合っている。早期退院となった人を家族の協力を得ながら対応したケースもある。終末期についてはどのように対応していくのか、家族との話し合いの時期も含め課題を整理しようと書式なども検討している。	○	重度化や終末期への対応は、グループホームの設備や職員体制、本人や家族の意向、医療機関の協力など、課題を整理し、ケースに合わせて柔軟に対応できるようにしておくことが求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報紙は家族向けとは別に地域向けを発行し個人情報の扱いに配慮している。ホームでは「よりよいケアをするために」とテーマをあげて改善に取り組んでおり、言葉使いだけでなく「接遇」にテーマを広げて取り組んでいる。同性介護を希望する利用者には入浴など配慮している。メモ類の扱いも気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重して声がけしている。食事もそれぞれがゆっくり安心して食べられるように席を工夫している。利用者に寄り添う時間を増やそうと業務改善し、一緒にお茶をしたり、傍に寄り添うことも大切なケアであることを再認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの前の畑で野菜を作っており、収穫も楽しみになっている。調理に参加できる利用者は少なくなっているが収穫したり、盛り付けや配膳など参加してもらっている。2階のベランダで焼肉をするなど楽しみの演出もしている。運営者や事務職員も一緒に食事を楽しみながらサポートしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めず、本人の希望で対応しているのでゆっくりと楽しむ人が多い。毎日入る人もある。少なくとも2日に1回は入ってもらうようにしている。浴槽に入るのを恐れる人があり補助具の工夫も試みたが、本人の希望でシャワー浴にしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力や生活歴から性格や誇り、得意としていたことなどを大切にし、特技を発揮したり役割や楽しみが持てるように工夫している。毎日現金でヤクルトを買う人、刺し子の大作に取り組む人もある。胡麻すりや盛り付け、下膳、日めくり、生け花、新聞取りなどできる力が発揮できる機会や小さな役割も大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を好まれる利用者が多く、天候や利用者の希望で臨機応変出かける機会を作っている。食材の買い物にも一緒に行っている。理美容も訪問理美容車の利用は止め、地域の店へ出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。2階で時々施錠をせねばならない状況があったが、原因や背景の分析にとりかかったとたんには徘徊がなくなり、職員が意識を変えたことで利用者が落ち着いたことを経験している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練をし、消防団にホーム内の視察もしてもらっている。運営推進会議で防災用屋外サイレンの提案があり設置し、町内に広報してテストもしている。町内の非常時にもサイレンを鳴らすことにしている。地元消防団、新区長にも協力してもらって避難訓練をする予定がある。水、米など非常用備蓄もしている。	○	避難訓練を運営推進会議のメンバーや近隣の人に見学してもらうなど、地域の理解、協力を更にすすめてほしい。併設のデイサービスと共に、防災や避難場所として地域貢献にも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が不足すると排便のリズムが崩れるなど影響が出ることも認識しており目標値を決め記録をして情報の共有をしている。牛乳は2～3回に分けて飲んでもらったり、好きな絵柄の湯のみを購入したり、客用の湯のみにしたりと工夫をしながら楽しく飲んでもらえるようにしている。月1回栄養量もチェックしている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの中庭を囲んだ設計になっており、プランターや金魚が自然に利用者の目に入るようになっている。クリスマスにはイルミネーションで飾り利用者に喜ばれている。2階のテラスは眺めもよく気分転換のスペースとして、また焼肉など行事に活用されている。家族や職員が花を持って来て利用者と玄関、階段などにあちこちに飾り季節を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや思い出の品を家庭から持って来てもらい、生活習慣や価値観、大切な思い出を尊重している。本人が使いやすいように、また心地よく過ごせるように家族の協力も得ている。家族との写真を掲示したり定期的に花を届けに来られる家族もある。家族関係を大切にしており、宿泊など一緒に寛いでもらえるよう配慮している。		